受賞施設紹介

遠野市民ｾﾝﾀｰ【岩手県遠野市】

◎“市民協働の舞台”により地域に活力

舞台芸術による豊かな生活を推進する拠点施設。すべてを市民の手づくりで行い、1976 年から継続している「遠野物語ファンタジー」には中・高等学校や市民の合唱隊、吹奏楽団が生演奏で参加。また、公設の遠野市民センターバレエスタジオ、遠野少年少女合唱隊を運営するなど、長年にわたる活動により市民の心豊かな生活に貢献した。

運営：遠野市　開館：1971 年

ﾘｱｽ･ｱｰｸ美術館【気仙沼･本吉地域広域行政事務組合】

◎“地域のアーカイブ”として新境地

リアス式海岸を有する地域特有の文化資源を継承するアーク(方舟)として民俗資料と美術作品を展示する美術博物館。食文化を切り口にした資料展、東北地域の若手アーティストを紹介する企画展、幅広い芸術の発表機会を提供する「方舟祭」に加え、3.11 後には津波文化史教育の拠点として資料の収集・展示を行い、地域のアーカイブとして新たなあり方を提示した。

運営：気仙沼・本吉地域広域行政事務組合教育委員会　開館：1994 年

座・高円寺(杉並区立杉並芸術会館)【東京都杉並区】

写真：三輪晃士

◎“まちの演劇広場”として尽力

演劇人が多く居住し、阿波踊りが盛んな杉並区の文化活動拠点。日本劇作家協会および東京高円寺阿波おどり振興協会と連携するとともに、芸術監督の基本方針のもと、区内の演劇人が中心になった NPO 法人が運営。市民、子ども、地域のためのさまざまな事業に加え、2 年制の「劇場創造アカデミー」を開講して人材育成を行うなど、劇場文化の発展に貢献した。

運営：特定非営利活動法人劇場創造ネットワーク　開館：2009 年

金沢 21 世紀美術館【石川県金沢市】

◎“美術館による地域振興”に新境地

金沢市中心部活性化のシンボル施設。「まちに開かれた公園のような美術館」をコンセプトにした円形ガラス張りの建築(妹島和世+西沢立衛/SANAA 設計)と、現代アーティストによる親しみやすいコミッションワークによりランドマークとして定着。国際的な企画展と子どもや市民に向けた普及事業を両立し、観光客を含め年間 150 万人を誘客し、美術館の新たなあり方を提示した。

運営：公益財団法人金沢芸術創造財団　開館：2004 年

福井県立音楽堂 ﾊｰﾓﾆｰﾎｰﾙふくい【福井県】

◎“質の高い鑑賞事業”により心豊かな生活を推進

パイプオルガンを備えた大ホール、室内楽向きの小ホールからなる本格的な音楽堂。「県民のためのマイホール」をスローガンに、国内外の一流演奏家・楽団による質の高いコンサートや縁の演奏家が音楽帰省する「越のルビー音楽祭」を開催。また、子どもを対象に地場産業のハープ、マリンバを学ぶ普及事業を行うなど、音楽による心豊かな生活に貢献した。
運営：公益財団法人福井県文化振興事業団　開館：1997 年

三重県総合文化ｾﾝﾀｰ【三重県】

◎“組織改革”により事業を発展

文化会館、生涯学習センター、男女共同参画センター、図書館からなる複合施設。大胆な組織改革によりサービスや事業を改善 。三重ジュニア管弦楽団、ワンコイン・コンサート、注目の若手劇団の滞在制作公演「M ゲキ!!!!!セレクション」、U25 を対象にした「ミエ・ユース演劇ラボ」、アートと教育をつなぐ研修会「ミエ・アート・ラボ」など、活力ある運営を実現した。
運営：公益財団法人三重県文化振興事業団　開館：1994 年

東かがわ市とらまるﾊﾟﾍﾟｯﾄﾗﾝﾄﾞ【香川県東かがわ市】

◎“子どもと人形劇の出会い”に尽力

日本で唯一の人形劇をテーマにした公設テーマパーク。年間 100 回以上の人形劇公演を行う「とらまる座」(92 年開館)、人形操作や工作ができる体験型施設「とらまる人形劇ミュージアム」(2003 年開館)を拠点に、30 周年を迎えた「とらまる人形劇カーニバル」や市内幼稚園などへのアウトリーチにも取り組み、人形劇による子どもたちの情操教育に貢献した。
運営：一般社団法人パペットナビゲート　開館：2003 年

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(MIMOCA)【香川県丸亀市】

撮影：山本糾

◎“コレクションの魅力”により感性を育成

丸亀市ゆかりの猪熊弦一郎から寄贈された 2 万点を超えるコレクションによる駅前美術館。遊び心溢れる猪熊の世界をテーマにした常設展をはじめ、「美術館は心の病院」という作家の理念を普及する子どもを対象にしたワークショップやアウトリーチを積極的に展開。新しい感性と出会う現代美術の企画展にも力を入れ、アートによる豊かな感性の育成に尽力した。
運営：公益財団法人ミモカ美術振興財団　開館：1991 年

直方市美術館(直方谷尾美術館)【福岡県直方市】

◎“子どものための美術館”として尽力

地元実業家の谷尾欽也が地域文化支援を目的に開設した私設美術館(昭和初期の元医院)を市が受贈。公募で集まった子どもスタッフが 7 ヶ月かけて準備するユニークな展覧会「子どものための美術館」や商店街のバナー製作など、子どもたちによる美術を通じた地域活動を推進。また、筑豊ゆかりの若手作家に発表の機会を提供するなど、美術による人づくりに尽力した。
運営：公益財団法人直方文化青少年協会　開館：2001 年